

開会挨拶 済生会理事長 炭谷茂

済生会理事長の炭谷でございます。今日は第 13 回済生会生活困窮者問題シンポジウムに、皆様方お忙しいにもかかわらずこのようなたくさんの方がお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

私ども済生会は、明治 44 年に設立されました。済生会ができた理由につきまして、少しお話ししますと、明治天皇が、当時生活困窮ゆえに医療サービスが受けられない人に対して無料で医療を提供したいということで始まったわけです。まさに済生会、生活困窮者のために行うということを理念として今日まできているわけです。それから 113 年経ちましたけれども、その根本的な精神はいささかも揺らいでいるわけではありません。私どもは現在も生活困窮者、もっと幅広く社会的に困難を抱えている人に対して支援をしたいということで全国的に活動を行っております。たぶんこのように生活困窮者、また社会的な支援を要する人に対して全国的に行っている社会活動は私どもだけだろうと思っております。

今日に目を向けますと、やはり 113 年前の状況といまとは大きく異なっています。むしろ私は問題が非常に大きくなっているのではないかと思います。たとえば、障害者にしても生活困窮者・精神障害者・発達障害の人も多くなっている。また引きこもりの人たちも 140 万人、また認知症の高齢者は 5 人に 1 人の時代と言われていています。また元受刑者もなかなか社会復帰できない。このようなことが現代の社会だと思います。

これらの原因を見ますと、やはり貧しいからというだけではなくて、たとえばこれまで支援していただけた親族や地域社会がなくなった、またデジタル社会になって人とのつながりが弱くなった、いろいろな事情があります。そこで済生会は、これからはダイバーシティを重んじたインクルーシブ社会にしようということで取り組んでいるわけです。

ただこれは済生会だけでできるわけではありません。今日これから大西市長にもお話しいただきますけれども、自治体と一緒にやっていきたいと思っております。また志のある企業、たとえばすでに連携してやっていただいている企業としては、高松にもありますがイオングループ、また無印良品の良品計画、それからコープみらいを中心とした生活協同組合、またユニクロさん、このような企業と一緒にダイバーシティを重んじたインクルーシブ社会にしよう、その解決にあたっているところです。

その中の一つの大きい問題として、今日のテーマになっているヤングケアラーという問題があるだろうと思っております。ヤングケアラーは最近、ようやくこれは重要だということで指摘されました。たとえば文科省や厚労省の調査によると1日に7時間もこれに携わっているお子さん、ヤングケアラーが1万人ぐらいいるという統計も出ているようです。このようなことを解決して、1日も早くインクルーシブ社会になっていければなと思います。

今日のシンポジウムが、これに役立つような、皆さんが考える機会になれば幸いです。今日はしっかりとお聴きいただければ大変ありがたいと思っております。（拍手）